

速記関連資料目録（岡島昭浩教授）

凡例

- 一、本目録は、「過去の速記原本を可読化するための日本語速記史の研究」（研究課題番号 20K20698、研究代表者：岡島昭浩 [大阪大学]）等により、令和2年度までに収集した、速記術に関連する書籍・雑誌及び速記録（落語・講談・浪曲等、演芸関係のものや、文芸関係のものは、対象外としている）を収録したものである。
- 二、目録の構成は、「速記術に関連する書籍・雑誌の部」、「速記録の部」とする。資料番号は部ごとに付けた。
- 三、目録は以下の通りの項目を基本とし、資料ごとに必要な項目を記述する。

No.

種別

著者、編者名

タイトル

発行年月日

巻号

刷、版

発行所

形態事項 総ページ数 p, 大きさ

【目次】

【備考】

- 三・一、表記は、原則として、通行の漢字字体、仮名字体に直した。
- 三・二、「種別」は、発行主体が明らかな図書を「書籍」、発行主体が明らかな雑誌を「雑誌」として分類する。広告等の一枚刷りのものは「一枚物」、会報等、新聞形態のものは「折り込み」とした。内部広報や報告書、個人が合綴したと思われる逐次刊行物等は「その他」として扱った。なお、もとは雑誌だったものを発行主体が合冊した本は「書籍」に分類した。
- 三・三、雑誌類の奥付に見える編集兼発行人等も「著者、編者」の欄に入れた。
- 三・四、初版・初刷以降の資料は、当該刷、版の発行年月日のみ記す。
- 三・五、著者・編者名、タイトル、発行年月日、発行所は、原則、奥付を参照した。奥付に記載がない、もしくは、奥付がない資料の場合は、表紙・内表紙・のど・本文等から確認をとった。奥付以外から書誌情報を取った際は、「備考」に注記した。
- 三・六、速記録に速記者名が記されている場合は、備考に書き出した。

速記術に関連する書籍・雑誌の部

1

書籍

兼子宗也（次生）編

現代国語速記法における速記符号文例集 付速記理論並びに符号辞書

1994年6月2日

速記懇談会

271p, B5判

【目次】基本文例、基礎語彙を使った文例、速記理論、符号辞書

2

書籍

小池喜三郎

時事英語ライブラリー 最新式グレッグ速記法

1956年10月10日

初版

研究者出版株式会社

はしがき・目次 x iii, 187p, 133×185mm

【目次】はしがき、第一章第一課 速記は発音を表す；S, Z, A；F, V；E；N, M；T, D；O, R, L；H；句読点（Punctuation）と Capitalization；練習例題、第二課 逆回りの S；P, B；K, G；Sh, Ch, J；I[ai]；例題；A[æ], A[a:]；Th. ；BRIEF FORMS（略語）No.1. ；Brief Forms も Phrases；読む練習、第三課 O[o] [o:]；BRIEF FORMS (No.2)；Phrases の続き；例題；SES, SIS；phrases に於ける to；X の書き方；例題、第二章第四課 速記文字を結び合わせる原則；練習例題；Ex-で始まる言葉；BRIEF FORMS (No.3)；Phrases；例題；-tion；-cient, -ciency, -cient（或は tient）；-tial；数字等；「t」で表わす；過去の形；例題、第五課 phrase における been と able；-ly, -ily, ally；BRIEF FORMS (No.4)；例題；二重母音 oi；-ure, -ture；-ual, -tual；Re-；Be-；De-；Dis-, Des-；Mis-；例題、第六課 BRIEF FORMS；I[ai]の次に来る母音；IA, EA；hook と母音；例題；have been, has been；had been able；re-；de-；BRIEF FORM (No.6)；例題；速記用 notebook；速記の speed、第三章第七課 OO Hook；例題；W, SW；WH；-THER；例題；言葉の中間にある W；Ah, Aw-；Y；BRIEF FORM (No.7)；例題、第八課 U の省略；Ng と Ngk；例題；Rd；Ld；BRIEF FORM (No.8)；例題；速記号の連結；例題；U[ju:]；Ow[au]；BRIEF FORMS；例題；ted；ded, det, dit；men, mem；min, mon, mum；BRIEF FORMS (No.10)；例題、第九課 速記号下から上へと上から下へ；n-d；n-t；m-d；BRIEF FORMS (No.11)；例題；二重母音で小母音の省かる場合；u[ju]の書き方；Days of week（週）；Months of the year（月）；例題、第四章 第十課 都市地

名等 ; ow[au] ; per-, pur, pro- ; -ment ; -able ; 例題 ; -ship ; -cal, -cle ; -self ; after- ;
例題、第十一課 BRIEF FORMS (No. 12) ; jent, jend ; pend, pent ; def, dif ; div, dev ; tiv,
rif ; 例題 ; Gregg Shorthand Alphabet 総括表 ; electr- ; inter-, intro- ; enter-, entr- ;
short-, ship- ; -gram ; 例題、第十二課 Business Letter の phrases ; was not, is not ;
時を表わす ago ; want の phrase ; 例題 ; -ful, -ify ; -ification ; -rity, -lity, -lty ;
例題、第十三課 den, ten, tain ; dem, tem ; この応用 phrases ; Business Letter 用語 ;
例題 ; tern, derm, ort 等の syllable で r が省かれる ; BRIEF FORMS (No. 13) ; 例題、第五
章十四課 -ct(kt) の t 省略 ; 過去を表わす disjoined 「t」 其の他 ; join し得る 「t」 其の
他 ; -st で終る one syllable で 「t」 の省かれるもの七つ ; one syllable 以上のものは終り
の 「t」 を省く ; disjoined した 「st」 をつけるもの ; 例題 ; BRIEF FORM (No. 14) ; d が省略
される言葉 ; 例題、第十五課 incl-, post, super-, trans- で始まる言葉 ; 例題 ; con-,
com- で始まる言葉 ; en-, in-, un- で始まる言葉 ; em-, im- で始まる言葉 ; 例題、第十六課 -
hood, -ul, -pose, -sume で終わる言葉 ; 例題 ; BRIEF FORMS (No. 15) ; -ulate ; -ulation ;
-ings ; -ingly ; -less ; 略語 -use, -titude, -cate, -gate ; 例題 ; 略語 -quire, -ntic,
-ology, -tribute, -iety ; 例題、第十七課 略語の続き ; -ition, -ation ; 例題 ; BRIEF
FORMS (No. 16) ; 言葉の始めにある for-, fore-, fur- ; al-, sub-, self- circum- ; 例題、
第十八課 phrases ; understand 等 ; misunderstand ; 例題 ; 合成語 anyhow, however, else ;
BRIEF FORMS (No. 17) ; 例題 ; BRIEF FORMS (No. 18) ; 数字等 ; Intersection (交叉) ; 例題 ; BRIEF
FORMS (No. 19)、第十九課 固有名詞 -burg, -ville, -field, -port, -ford, -ington 等 ;
主要国名等 ; BRIEF FORMS (No. 20) ; 例題 ; -ous で終る言葉 ; 例題 ; The Constitution of
Japan ; BRIEF FORM 総括表 ; 参考書 ; 結論

3

書籍

武部良明

日本速記方式発達史

1942 年 11 月 25 日

日本書房

【目次】 I 序論 : 第一章 序説、II 本論 : 1 方式構成原理 (その発達史) その基本文字
を中心として : 第二章 基本文字 (一)、第三章 基本文字 (二)、第四章 基本文字 (三)、
第五章 基本文字 (四)、2 基礎表示法の構成 (その工夫の歴史) その基本文字との関係
において : 第六章 濁音の表示、第七章 拗音の表示、第八章 長音と促音、3 単群の形
成 (その工夫の歴史) a. 縮字方を中心として : 第九章 畳音の縮字、第十章 附帯音縮字、
b. 数詞を中心として : 第十一章 数詞の書法、c. 略記法を中心として : 第十二章 省画の問
題、第十三章 略法の問題、III 結論 : 第十四章 速記方式、速記関係書目、索引

【備考】復刻版

4

書籍

兼子次生

速記研究

1990年7月7日

第一版

速記文化研究所

163p, B5判

【目次】0. はじめに 1. 速記の芽生え 2. 速記という言葉 3. 速記手段 4. 流派のいわれ 5. 速記符号の書記方向 6. 現行の分類とその定義 7. 表記思想 8. 創案者の線態嗜好 9. 分類のレベルについて 10. 符号形態観 11. 符号価値観 12. 基本思想の2大潮流 13. 表記単位 14. 発展過程 A 基礎符号: 15-0. 音の取り扱い 15-1. 子音表記法 15-2. 母音表記法 16-0. 符号性質 16-1. 符形由来 16-2. 符号種 16-3. 線種 16-4. 線の性質 B 文法: 17. 全音記法 18. 縮記法 19. 略記法 20. 省記法 21. 符号形態(連綴法) 22. 線界処理 23. 速記法設計法 24. おわりに

5

書籍

衆議院速記者養成所記念事業準備委員会

衆議院速記者養成所の88年間

2007年5月

衆友会

104p, A4判

【目次】それぞれの養成所 それぞれの青春、味わい深い絵表紙の「衆友」、「あいがとう養成所! 観桜懇親会」、講師の先生方のご卒業

6

書籍

兼子次生

速記の科学

1982年9月16日

初版

速記文化研究所

211p, A4判

【目次】第1章 書くいとなみ、第2章 速記法理論、第3章 符号式速記法理論、第4章

符号創出理論、第5章 符号書記理論、追補

7

書籍

森沢神行編

改訂 熊崎式速記術独習

1938年2月25日

第5版

明生堂書店

序文7, 目次7, 本文378p, 135×192mm

【目次】第一章 速記術の歴史、第二章 習学者の資格と用意、第三章 速記の用具、第四章 速記文字の割出、第五章 阿行、第六章 加行、第七章 佐行、第八章 多行、第九章 奈行、第十章 波行、第十一章 麻行、第十二章 也行、第十三章 良行、第十四章 和行、第十五章 濁音及半濁音、第十六章 鼻音、第十七章 促音、第十八章 拗音、第十九章 長音、第二十章 縮綴法、第二十一章 疊字法、第二十二章 語格後字、第二十三章 交互助辞の略符、第二十四章 肯定・否定法、第二十五章 動詞及助動詞の略符、第二十六章 略符、第二十七章 略符の連綴、第二十八章 速記上の数字、第二十九章 省略法、第三十章 速記の練習、第三十一章 言文速記の例、第三十二章 翻訳の練習、第三十三章 修業年限と速力の程度、第三十四章 速記術の応用

8

書籍

森沢神行編

改訂 熊崎式速記術独習

1938年2月25日

第5版

明生堂書店

序文7, 目次7, 本文378p, 135×192mm

【備考】7と同一内容。書き込みは朱引きのみで、文字の類は見当たらず

9

書籍

加藤瀧

思ふまゝ書ける最新速記術の学び方

1942年1月8日

改訂12版

崇文堂

図版 6, 目次 6, 本文 374, 付録 41p, 132×185mm

【目次】第一編 総説、第二編 基本文字と符号、第三編 縮綴法、第四編 数詞法、第五編 簡略法、第六編 略字法、第七編 省略法、附録

【備考】タイトルは内表紙による

10

書籍

毛利高範

毛利式日本速記法詳解

1927年9月13日

再版

毛利式速記学校

図表・序・目次 12, 本文 81p, 129×190mm

【目次】第一部 初等速記法：第一章 音声の分類、第二章 速記文字、第三章 文字の練習、第四章 文字の連綴、第二部 通信速記法：第五章 略韻法、第六章 略韻正体法、第七章 略韻変体法、第三部 高等速記法：第八章 略音法、第九章 自由略法

11

書籍

高木彌三郎

最新速記術講義

1935年4月15日

京文社書店

序 2, 本文 266p, 135×190mm

【目次】1 序文、2 速記術修学者への注意、3 速記用具について、4 基本文字について、5 速記上仮名の遣方、6 基本文字練習、7 長音の書方、8 鼻音の書方、9 濁音と促音の書方、10 変則「カ」行の書方、11 疊字の書方、12 拗音練習、13 実地練習についての心得、14 送り仮名に就いて、15 対句疊字及び反語疊字法に就いて、16 附鍵法に就いて、17 数字の書方、18 口語語尾の書方、19 肯定線及び否定線に就いて、20 特殊記号、21 省略法、22 略字について、23 特殊略字、24、略字及び普通文の否定法、25 「的」及び「らしい、く」の略法、26 略字の特殊変化と「思ふ」の接続法、27 語尾と「ル」及び「シ」の接続法、28 略字と特殊語尾変化、29 「上」の省略法、30 実地練習問題、31 卒業生指針

1 2

書籍

加藤瀧

思ふまゝ書ける最新速記術の学び方

1942年1月8日

改訂12版

崇文堂

図版6, 目次6, 本文374, 付録41p, 132×185mm

【備考】9と本文内容は同一 ただし、9には質問券が付される点で相違あり

1 3

書籍

丸山平次郎

実験改良速記術独学

1887年4月

前川書房

118p, 122×182mm

【目次】第1章 総論、第2章 記号原因、第3章 記号組織、第4章 音解、第5章 呼声、第6章 記号綴り方、第7章 後字略記、第8章 働詞時限略記、第9章 暦数略記、第10章 句読法、第11章 感声標、第12章 記号連綴活用例、附記 実地速記言文反訳

【備考】タイトルは内題による

1 4

書籍

中根正世

通俗中根式速記法

1941年4月18日

四〇版

東京中根速記学校出版部

図版6, 目次2, 本文237p, 135×185mm

【目次】本式普及沿革概要、はしがき、識者に檄す!、社会と速記、速記者について、本論：第一章 速記法の組織、第二章 基本文字、第三章 長音、第四章 ヨウ音、第五章 インツクキ法、第六章 助詞、第七章 上段、第八章 下段、第九章 中間小カギ、第十章 最大線、第十一章 特殊略法、第十二章 立案の根本方針、附録

【備考】タイトルは内表紙による

15

書籍

三村侑弘

新版 タテ書き速記

1964年9月28日

東栄堂

328p, 132×183mm

【目次】速記の開眼（二之宮英雄）、まえがき、1 速記カナ文字と符号、2 速記の学習に倦きて来て人のために、3 人に読める速記文字、4 不断の錬磨ということ、5 略字について、6 省略法、7 話の聞き方の技術、8 速記の用具とその使用方法、9 速記文字練習上の注意、10 速記文字の活用法、11 タテ書き速記の出来るまで、付録

【備考】タイトルは内表紙による

16

書籍

荒浪市平

日本写言術 全

1912年10月序

隆文堂

本文65, 付録25p, 108×195mm

【目次】第一編 総論：1 写言術とは如何なるものか、2 写言術は何れの時代より始まりしか、3 写言術の時期は如何に区分せらるゝか、4 写言術に関する著名なる事実、5 日本写言術の略史、6 日本写言術の途用（マ）、7 学習者の資格、8 用具並に其使用法、9 学習の順序方法、10 技術者の通用語、第二編 本論：第一章 符号の類別、第二章 音韻の區別、第三章 音韻の変化、第四章 符号の原型及び割出し方、第五章 単符号、第六章 単符号の連接、第七章 変用単符号、第八章 変音符号、第九章 変用詰音、第十章 表数符号、第十一章 動詞符号、第十二章 動詞符号の組織、第十三章 略記符号、第十四章 略記号の応用、第十五章 混成符号、第十六章 記事符号、第三編：応用論

【備考】奥付なし 著者、タイトル、発行所は表紙による

17

書籍

松杜繁土

速記の初歩から

1970年3月1日

第7版

日本文芸社

245p, 130×185mm

【目次】はしがき、速記とは、基礎符号編、縮字編、略符号編、略字集、総合つづり字例

18

その他

傍聴符号筆記録自習録

58丁, 120×180mm (中本)

【備考】仮綴じ本 奥付なし タイトルは表紙の墨書きによる 本文は整版印刷

19

その他

調査だより

53枚, 176×250mm

【備考】ガリ版刷り内部広報の合綴本 第9回国会 (NO.3) : 昭和25年12月4日～第19回国会 (第13号) : 昭和29年6月1日

20

書籍

植松尚男

速記術入門

1956年11月20日

日昭館

序2, 目次2. 本文107p, 127×182mm

【目次】緒言、第一章 速記文字、第二章 母字及父字、第三章 子字及変音の表はし方、第四章 数詞及外来語、第五章 拗音符号、第六章 省略法、第七章 略記符号、第八章 記事符号、第九章 効果的練習法、第十章 反文、第十一章 沿革及現状

21

書籍

田鎖一

最新田鎖式 日本速記法詳釈

1954年7月30日

5版

日本速記社

序8, 目次10, 本文326p, 125×182mm

【目次】序、緒説 如何にして速記を学ぶべきか、第一章 総説、第二章 速記基礎音字の組織、第三章 速記字連綴の法則、第四章 拗音字（拗音字形の法則）、第五章 濁音字（濁音字の書き方）、第六章 長音字（長音字の書き方）、第七章 撥音字（撥音字の書き方）第八章 促音字（促音字の書き方）、第九章 縮字法、第十章 疊音字、第十一章 数字、第十二章 標識、第十三章 略字法、第十四章 助字法、第十五章 疊句略記法、第十六章 練習法、第十七章 速記技倆の段階、第十八章 速記実務要項

【備考】六十七年式

2 2

書籍

荒浪清彦

実用速記術

1930年11月15日

訂正7版

文陽堂書店

78p, 128×190mm

【目次】第一編 総論：1 速記術の定義、2 速記術の科学的価値、3 速記術の実用的価値、4 速記術の起源及其変遷、5 学習者の資格、6 速記用文房具並其使用方法、7 学習方法、8 速記の術語、第二編 本論：9 符号の種類、10 音韻の区別、11 単符号の原形、12 子音符号の組立法、13 基本符単号（マ）、14 単符号の綴方、15 変音単符号、16 反音符号、17 重音符号、18 同行音符号省略法、19 詰音符号、20 数字、21 単符号の練習、22 動詞符号、23 動詞符号の組織、24 動詞符号の練習、25 応用略記符号、第三編 結論：26 臨機符号、27 完全な速記符号、28 質疑応答

【備考】タイトルは内表紙による

2 3

書籍

菅原長太郎

速記術応用 学生筆記法 改訂増補版

1940年7月20日

増補50版

三省堂

66p, 131×189mm

【目次】1. 片仮名の書き方、1.1 長音の書き方、1.2 鼻音の書き方、1.3 濁音の書き方、1.4 促音の書き方、1.5 「ト」の省略、1.6 「ル」の省略、2. 数字の扱い方、2.1 時間の表し方、2.2 歩合の表し方、2.3 「第」及び不定数の表し方、2.4 単位記号、3. 肯

定及び否定法 (1)、3.1 肯定法、3.1.1 延長法、3.1.2 附鉤法、3.2 否定法、4. 肯定及び否定法 (2)、4.1 「マス」に就いて、4.2 「アリマス」「ナリマス」に就いて、4.3 「マシテ」「マシタ」について、4.4 「マセン」「マセウ」に就いて、5. 省略法、5.1 「出来ル」と「出来ヌ」の省略、5.2 複語の省略、5.3 不定詞の省略、5.4 「マデモナイ」の省略、5.5 一般省略法、6. 略字法、7. 結言

24

書籍

近藤貞治

熊崎式百九十字速記術

1917年6月序

長久社書店

序4, 要言5, 熊崎健一郎先生7, 目次4, 本文204p, 129×186mm

【目次】第一 熊崎式速記術の長所、第二 速記符号の割出、第三 基本文字の構成、第四 拗音と半濁音、第五 長音の現はし方、第六 促音の書き方、第七 綴方を短縮する方法、第八 送り仮名の書方、第九 言葉の終りに附く略符、第十 「する」と「せず」の肯定否定、第十一 略字に就ての説明、第十二 速記上数字の書き方、第十三 言葉を省略して書く法、第十四 実際上の速記連綴例、第十五 速記練習上心得べき事

【備考】奥付なし 著者、タイトル、発行所は内表紙による 表紙改裝本

25

書籍

早稲田式速記普及会

早稲田式速記講義録 第三卷

1953年4月25日

早稲田式速記普及会

312p, 138×209mm

【目次】第三編 速記法本論文法篇(続き): 第三章 W式ク・ツ音省略法、第四章 同行音文字簡略法、第五章 助詞について

【備考】大正2年5月23日『大阪毎日新聞』の号外あり(内容は、大正天皇の健康状態について) 非売品

26

書籍

森礼次郎

健脳強記の秘鍵 記憶縦横(講演速記 完)

1936 年 1 月 10 日

東京蜚雪学生同志会

目次 3, 本文 49p, 145×210mm

【目次】▼記憶力総論、◇良き記憶力は立身の国への貴重な旅券である、◇古来の偉人天才と兄弟なる記憶力に就て、◇何人も良き記憶力の所有者たり得る、◇記憶力を増進発達せしむるには如何すべきか?、◇脳及び神経の強壯法、◇記憶力増進法の第一要件、◇注意力集中法(注意集中一)、◇鈍き記憶の原因と其根本的除去法に就て、◇一如の心境に到達するには(注意集中二)、◇必読すべき諸条件、▼記憶法各論、◇注意力集中法としての直観記憶法の原理、◇直観記憶法による単語暗誦法に就て、◎実験問題 1 = 単語其他、◎実験問題 2 = 単語其他、◎実験問題 3 = 数字、英語電話番号其他

【備考】タイトルは内表紙による

27

書籍

日本速記学会

速記術講座 前編

1930 年 6 月 5 日

八版

日本速記学会

32p (pp. 1-32)、190×257mm

【目次】第一課 速記術の学び方、第二課 速記の道具に就いて、第三課 五十音の速記文字、第四課 速記上の仮名遣ひ、第五課 ア行のお話、第六課 ワ行のお話、第七課 カ行のお話、第八課 長音と鼻音のお話、第九課 濁音と促音のお話、第十課 サ行のお話、第十一課 タ行とナ行のお話、第十二課 ハ行と半濁音のお話、第十三課 マ行と畳字のお話、第十四課 ヤ行とラ行のお話、第十五課 拗音のお話、第十六課 総復習と連綴上の注意

28

書籍

日本速記学会

速記術講座 中編

1930 年 8 月 15 日

八版

日本速記学会

23p (pp. 33-56)、190×257mm

【目次】第十七課 再び学び方に就て、第十八課 綴り方短縮の方法、第十九課 ア段短縮符、第二十課 イ段短縮符、第二十一課 ウ段短縮符、第二十二課 エ段及びオ段短縮符、

第二十三課 間接綴り方短縮法（同行数音連続短縮法）、第二十四課 拗音に連綴する短縮符、第二十五課 送り仮名の書き方

29

書籍

日本速記学会

速記術講座 後編

1930年5月20日

六版

日本速記学会

31p (pp. 57-88) , 190×257mm

【目次】第二十六課 附鍵法、第二十七課 口語語尾の書き方（延伸法のお話）、第二十八課 肯定線と否定線、第二十九課 速記上数字の書き方、第三十課 略字のお話、第三十一課 各種省略法のお話

30

雑誌

会報

1927年9月1日

2巻1号

衆友会

55p, 150×223mm

【目次】第九期卒業式、鈍記放手（坂牧生）、関西新聞社の速記者調（古川秋太郎）、第二期速記練習生（古川秋太郎）、釜中のあいさつ（陰山虹影）、私の速記生活（岡部荒二）、無題（松本生）、あんまの効用（よもたけ生）、速記者の失業問題と吾人の覚悟（H・K・生）、碌々評伝（牛歩迂人）、鉛筆占い（さいらいす）、痴人の回想（菅田碧浪）、朝鮮速記界の現状及将来、談話室、会員消息、報告：卒業試験、其後の動静、新入生歓迎会、練習生近況、研究会経過、会計報告、編集後記、お願い、付録：会員名簿

【備考】著者、タイトル、発行年月日、巻号は内表紙による

31

雑誌

会報

1928年1月1日

3巻1号

衆友会

52p, 150×223mm

【目次】世と云ふ声に驚いた男の寝言、東日速記者採用試験、長瀬遊行、破れ障子、演説の鼻祖、生活断片、痴人の回顧、はりませ屏風：壁訴訟、漫画、あちらの話、こちらの話、衆友会金融部のこと、報告：院内幹事改選、研究会経過、秩父長瀬遊行、振替口座新設、練習所近況、速記者採用試験、会員消息、会計報告、編集後記

【備考】著者、タイトル、発行年月日、巻号は内表紙による

3 2

雑誌

西来路秀男編

衆友会会報

1928 年 11 月

7 号

衆友会

56p, 150×221mm

【目次】巻頭の言葉（三角治助）、速記雑観（友野重三郎）、練習所改革の一石を投ず（北村賛平）、技術主義か近代主義か（H・N 生）、総合的結合と連絡機関の単一化を望む（岡幹夫）、自由人の言葉（陰山暁栄）、生に喘ぐ（H・N 生）、倭人の寝言（鯉城大古事）、近況雑信（中野濠、震災と六期生を憶ふ（松本宇市）、あの頃の思ひ出（八期合童）、遠足（交響楽）（合作、つり（市丸一）、嘘に蝕まれた男（Y 生）、誰に語るでもなきボヘミアンライフ（タニー・ケン）、会員消息、報告、会計報告、編集餘言

3 3

雑誌

平塚啓次編

衆友会会報

1929 年 7 月

8 号

衆友会

24p, 150×221mm

【目次】巻頭言、速記雑観（友野茂三郎）、東京朝日新聞速記者採用試験に就て（有山倭）、ふざけた心理（紗歌魔鬼生）、初夏はプレーン・ソーダを飲みて（SOS 生）、麻雀縁起（白露生）、同期生を憶ふ（植松義広）、衆友会総会の記（S 生）、会員消息、報告、練習室、会計報告、編集餘言

34

雑誌

長谷川清作編

衆友会々報

1930年2月

9号

衆友会

本文48, 名簿4p, 150×221mm

【目次】伸びよ若人、題速記練習所出身者分布図後（小島溪南）、巻頭言、速記雑観（友野茂三郎）、新年を迎えて（中根生）、司法部内へ！（木村鑛）、電話速記はどうなる（松島生）、毛利式婦人速記者（ST生）、与へられたる公案（陰山生）、忠言の受賞（水元重行）、衆友会諸君に告ぐ（友野茂三郎）、鉛筆の今昔（喜多川生）、この頃（にき・しやうこ）、あの日この日（おか・みきお）、感想と希望（松本字一）、雑観一束（福島義臣）、煙草の秘密（YU生）、彼（Y0生）、漫画（HN生）、成田三里塚トリップ（白露生）、懐かしき便り、衆友行進曲、嗚呼！二君、川島良君を悼む（友野茂三郎）、後藤俊氏の訃（小島誠之進）、川島良君の霊に！（蓬田健）、後藤君想ふ（東海林正雄）、報告、会員消息、会計報告、編集の後に、付録：衆友会々則及会員名簿

35

雑誌

長谷川清作編

衆友会々報

1930年11月

10号

衆友会

54p, 150×221mm

【目次】巻頭言、速記雑観（五）（友野茂三郎）、四十年議会生活の感想（一）（尾張捨吉郎）、第十二期卒業生諸君を送るに際して（田口弼一）、速記練習所の回顧（友野茂三郎）、恩師追想（二木尚孝）、恩師追想（小沼靖）、符号の研究（森田章三）、同窓会としての衆友会（旭堂生）、速記者の必ず心得べき一分間頭脳明晰術（寺本生）、故後藤君の生家を訪ふ（鈴木生）、飛行機に乗る（松本生）、治外法権下の泉都武雄（松尾三誠）、武蔵嵐山紀行（溪荘生）、懐かしき便り、報告、会員消息、衆友野珠（マ）部誕生、会計報告

36

雑誌

浅川英雄

衆友会々報

1931年7月15日

11号

衆友会

本文40、名簿5p, 150×221mm

【目次】巻頭言、速記雑観(六)(友野茂三郎)、四十年議會生活の感想(二)(尾張捨吉郎)、自から誠む(喜多川孝太郎)、教室へ先輩の来訪を望む(森田生)、研究科設置に就て(水野為三郎)、国会議員穴さがし(溪南野人)、練習生時代の思ひ出：二期生を語る(XYZ)、三期生オン・パレード(H生)、十期生とボク(ショウジ・マサオ)、十一期生素描(エヌ坊)「信州旅行余談(友野茂三郎)、時事の人々(大三生)、ウエーヴ、懐かしきお便り、短編「靴」(YU生)、会員消息、報告、編集の後に、会計報告、付録：衆友会々則及会員名簿

37

雑誌

坂本一

衆友会会報

1932年6月14日

12号

衆友会

48p, 150×223mm

【目次】巻頭言、速記漫談(友野茂三郎)、四十年議會生活の感想(三)(尾張捨吉郎)、速記と国語国字(S・M生)、努力の人生(水野為三郎)、ピクニック便り：多摩河畔の清遊(喜多川孝太郎)、鶴川村遊記(坂本一)、：第七期の想出(S・M生)、大久保素描(山本枝陽)、かみならぬみの(ありやま・つよし)、矢口の横顔(矢口渡)、無題(国吉増三)、往事(K・I生)、懐かしきお便り、五目いろ／＼速記(来々軒)、速記練習生採用試験英語問題解説(喜多川孝太郎)、会員消息、報告、編集後記、会計報告、附録：衆友会会員名簿、衆友会会則

38

雑誌

岩島正継

衆友会会報

1933年12月

13号

衆友会

54p, 150×223mm

【目次】会員名簿、会則、速記雑観（友野茂三郎）、巣立つ人々へ（田口弼一）、速記術に就て（多賀羅亭）、雑観三題（二木尚孝）、秋の遠足、昨年度の報告事項、雅叙園の交歓、関西支部設置に就て、東窓に凭りて。（陰山晃栄）、倒錯（淮南王）、戦争と平和（ハマノ生）、故き人を悼む、再び「一分間頭脳明晰術」に就て（寺本生）、チブス病床日誌（いはしま生）、六期の人々（松本宇市）、速記者四季物語（平塚生）、方言（JOBK）、懐かしきお便り、会員消息、計会（マ）報告

39

雑誌

石渡潔

衆友会報

1934年5月

14号

衆友会

本文46, 名簿4p, 150×223mm

【目次】見よ我等の勇躍を、水曜会研究発表全景、衆友小言、議会速記と若林先生（友野茂三郎）、衆友会の使命について（森田章三）、まことそらごと（四期 いはしま）、新聞切抜二つ（陰山晃栄）、速記問題（羅久比）、衣食住を語る（喜多川孝太郎）、転居道楽（ミスミ・ジスケ）、新聞社の屑籠から拾った話の一つ二つ（八期 岡幹夫）、思ふまゝ（十三期 下地無妻）、思出を語る、燕に托して懐しの皆様へ、水曜会研究発表、竹井辰雄氏のこと（百歩）、練習所の窓、会員消息欄、編集を了へて

40

雑誌

石渡潔

衆友会報

1934年11月

15号

衆友会

38p, 150×223mm

【目次】巻頭言、速記雑観（八）（友野茂三郎）、しつこい鉄砲、養成所の改善に就て（森田章三）、速記士法実現の為に（松本宇市）、衆友会諸君に望む（水野為三郎）、速記統制本部提要（羅久比）、衣食住を語る（喜多川孝太郎）、日本語と英語、座談会（在京衆友会員）、速記偶語（敬天老人）、回顧して想出を語る（岡幹夫）、旅に行く（小島勇）、水曜会研究発表報告、皆様お変わりありませぬか、会員消息欄、会員住所変更録、幹事挨拶、編集を了へて、会計報告

4 1

雑誌

片桐寿

衆友会報

1935 年 11 月

17 号

衆友会

58p, 150×223mm

【目次】巻頭言（森田章三）、議会速記の懷古（特別寄稿）（若林若翁）、速記雜觀（友野茂三郎）、当面せる二三の問題（水野為三郎）、練習指導に関する若干の考察（金口木舌）、身辺雜話：秋五想（須見忠男）、ふざけた心理（中根治彦）、渡満第一印象（松井仁夫）、都新聞の窓から（塩月良勝）、国民新聞のこのごろ（八巻政義）、電話速記にも分野を（吉川節雄）、病床雜記（破魔能生）：寄宿生活今昔放談会、新井田次郎君を悼む（友野茂三郎）、新聞速記異変（足賀海太郎）、最近のソヴェート映画（高張司氣太）、院内会員人物寸評（下）（覆面子）、澄む空に脚かるく（第一部会員ハイキング）（萩原ひでを）、二頁通信、幹事挨拶・編集後記

4 2

雑誌

野口芳夫

衆友会会報

1936 年 7 月

18 号

衆友会

70p, 150×223mm

【目次】題言（坂内徳松）、速記雜觀（十一）（友野茂三郎）、養成所から速記者まで：養成所拡張案、養成所と課の相関性（石渡潔）、問題の発展のために（最雷爺）、速記者とシヤレ学と（美竹山人）、新聞社速記のために（野口芳夫）、芝生活模様を漫談る（芝・山・芳）：衆友会の関西支部：誕生と其使命（水元重行）、大会記（中井栄一）、挨拶（於春季総会）（浅川英雄）：水元氏へ（小島誠之進）、大阪市会速記便り（陰山晃栄）、会報について（二木尚孝）、書道を勧む（閑山逸人）、名古屋から（ふの字）、全国大会を要望（松尾誠三）、電通聯合合併について（吉川節雄）、満州便り（松井仁夫）、希望（五島俊夫）、ペンクラブ、森田先生（鈴木庄平）、森田先生を偲ぶ座談会、斉藤佐四郎氏（松本・二木）、臨時並春季総会・養成所通信・会員動静・後記

4 3

雑誌

野口芳夫

衆友会会報

1937 年 1 月

19 号

衆友会

54p, 150×223mm

【目次】題言（水野重行）、速記雑観（十二）（友野茂三郎）、五講記、講師は語る 座談会、小島溪南先生慰安会顛末（水元重行）、関西支部便り（陰山晃栄）、満州から（松井仁夫）、扇山紀行（T 生）、最近の日本映画に関する走り書（高張司気太）、新版速記漫談（秋山節義）、日誌、会員動静、後記

4 4

雑誌

落合連

衆友会報

1937 年 10 月

20 号

衆友会

82p, 150×223mm

【目次】巻頭言（平塚啓次）、速記雑観（十三）（友野茂三郎）、養成所昇格第一歩（三角治助）、西沢書記官に聴く（衆友会幹事）、符号教授について（水野為三郎）、御挨拶に代へて（石川隆一）、速記断想（轍鮒）、録音機とわれら：録音機と速記の向上性（岡幹夫）、録音機など（HT 生）、青陵夜行（桂仙舎住人）：趣味随筆：系図余談（坂本一）、新議事堂壁画寸言（榎戸庄衛）、カメラ妄言（亀羅狂助）、言はでもの記（金原外次郎）、名古屋を語る（KM 生）：東海支部結成：東海支部の生誕まで（平塚啓次）、東海支部結成を録して（西堀一雄）：関西支部便り（陰山晃栄）、マイクロホン、東日の会員ラインアップ（東日男）、俺達十七期生（志田生）、期友奥野君の出征を祝して（畔南生）、石の上にも三年（TN 生）、酔余放談（関の与太つべ）、練習所便り、ミーティング、転居一束、会計報告、編集余滴

4 5

雑誌

手嶋史雄

衆友会報

1938 年 8 月

21 号

衆友会

本文 92、名簿 9p, 150×223mm

【目次】巻頭言（丁字堂）、記念式：開会の辞（多田速記課長）、式辞（大木書記官長）、祝辞（小山議長）、祝辞（田口前書記官長）、祝辞（高田卒業生総代）、祝電披露、金光副議長のテーブル・スピーチ：二十周年に寄す：二十周年式典に陪して（友野茂三郎）、所感（武田直次郎）、二十周年の回想（尾張捨吉郎）、二十周年を祝す（喜多川孝太郎）、偶感有詩（小島誠之進）、二十周年を迎えて出身者諸君に望む（鈴木庄平）、二十周年を祝福して（水野為三郎）、二十歳を迎えた養成所（中山宗太郎）、是から何を為すべきか（石川隆一）：記念事業解説（三角治助）、衆友の頁：感ずる所多し（松本宇市）、頼杖について（須見忠男）、第十期生時代（東海林正雄）、生活者の声を（五島俊夫）、速記の生理学（杜子生）、南洋夜話（鶴間文）：東海支部報告、大阪市会と速記（黒田正年）、題速記雜観（小島誠之進）、龍門雜誌の「雜観」評、書記官長・速記官長更迭、田鎖翁逝く・若林翁逝く、衆友通信、事変関係衆友ニュース、練習所便り、衆友ミーティング：臨時総会（幹事改選）、春季総会（二十周年祝賀懇親会）、衆友座談会：新入会員紹介、秋季特集号原稿大募集、会計報告、編集後記

4 6

雑誌

大窪典秋、尾崎庄介

衆友会会報

1941 年 4 月

23 号

衆友会

44p, 150×223mm

【目次】国語問題と話し方（友野茂三郎）、山の彼方から：伝統の創造（杜子生）、或る異端者の弁（凌雲生）、学窓より（西尾生）、新健康譜（晃栄生）：海超えて：十一人集（本多、横井、岡、清水、五島、佐藤、羽島、西尾、大友、小林、中山）：建設へ：現代の課題、一つの理論（武部良明）：養成所だより、会・会員動静、特報・後記、住所録

4 7

雑誌

服部績、国分純一

衆友会会報

1942 年 2 月

24 号

衆友会

48p, 150×209mm

【目次】巻頭言、詔書、大東亜戦争に際して（大木操）、速記学とはどんなものか（手嶋史雄）、練習所の回顧（遺稿）（友野茂三郎）、果たしてこれでよいのか（覆面子）、偶感（凌雲生）、一つの捨石（松井生）、衆友はがき通信、東海支部だより（宮下生）、名古屋市会だより（山本敏郎）、ジリツ会の誕生、ジリツ会の誕生に当りて（斉藤正朝）、若い人々、養成所だより、会合、衆友情報、編集後記

48

雑誌

衆友会

衆友 衆議院速記者養成所創立 50 周年記念号

1968 年 12 月

45 号

衆友会

134p, 150×209mm

【目次】衆議院速記者養成所創立五十周年記念式典挙行、速記とテープレコーダー（小池元男）、記念事業経過報告、盛大だった「衆友のつどい」、記念事業寄付者御芳名、「思い出」談話（西来路秀男）、三年町から用賀へ（坂内徳松）、養成所五十年史ができるまで（谷田達彌）、石川隆一氏の速記教授法（石渡潔）、30 年 1 日のごとく（館稔）、あの人このひと、明治・大正・昭和（水野為三郎）、近況（浅川英雄）、帰農した速記者の悔悟（高野太郎）、思いいずるままに（水元重行）、あの頃（榎戸庄衛）、速記一代（松井仁夫）、あの頃（池本寅次）、中折れ帽子（土屋常安）、あれから 20 年（佐藤満）、三年町一用賀 20 年（小泉欣三）、テストとミスの谷間で（池田朝子）、高校のクラブ活動における速記教育について（松下聡子）、寮生活日記（原邦雄）、修学旅行記（小林頼子）、残念ですが…、会員数と就職先調べ、住所録あとがきにかえて、昭和 43 年度養成所入試問題、養成所ニュース、衆友会会計決算・予算

49

雑誌

手嶋・小堀

衆友会報復刊題第一号 養成所創立 30 周年記念

1949 年 12 月

衆友会

本文 52、名簿 12p, B5 判

【目次】養成所創立三十周年記念式：開式の辞（沿革と現況）（西来路秀男）、式辞（研究の進展）（大池真）、祝辞（民主化への貢献）（幣原喜重郎）、祝辞（技術の強味）（岩本信行）、

祝辞（不断努力）（松島登）、閉式の辞（西来路秀男）、あいさつ（而立の年）（小池）、養成所符号の沿革（武部良明）、祝（南良太郎）、授業現況（野口芳男）、十年間（山本敏郎）、旧友紅顔（池田秀雄）、初期議会と速記事情（手島史雄）、「職業倫理」ということ（上原和子）、人生と速記（中村敏男）、稀少価値と魔術生（丁字堂）、養成所の近況、報告、会員名簿

50

書籍

早稲田速記指導部

180字でできる〈独習〉速記入門 シャベるより早い特技

1980年7月1日

15版

KKベストセラーズ ワニの本

249p, 108×175mm

【目次】 1より早く書く技術、遅筆コンプレックスを解消する、「[+++]」で「ボサツ」と読ませる知恵、早書き願望は2000年も昔から、自己流ではじめた松岡さんの方法、TV、CF、KK、…等の略字を応用、「KA会議」で「A業K画」、なぜ「早書」が必要か？、あなたは1分間に何文字書けるか？、記録は正確な人間をつくる、生活に役立つ記憶術、1日を30時間につかう技術、2今すぐできる早書き法、だれでも覚えられるカタカナ速記、「基礎」は「キノ」と5画で書ける、五十音で基本練習、横書き、分かち書きのルール、濁音・長音の書き方、「ん」と「っ」はこうして略す、くり返し「書いて」「読む」、自分なりのコードをつくれ、国語表記をとび超えろ、記号や略字を活用する、日常用語の省略の仕方、臨時記号をフルにつかえ、キーワードの求め方、早書きノートの活用法、3速記文字の独習法、ことばの写真法、「点」が最高の速記文字、「簡単な線」を整理する、速記線に隠された秘密、ゆっくり書くのが「速記」、五十音表と速記文字、8本の線を覚える（A列）、長さを2倍にする（O列）、小円や円をつける（I列、U列、E列）、短い線の6つの速字、速記文字は表音記号である、これが速記上達への近道、速字を続けて書く3つの工夫、「さ行・た行」のB形、よくつかわれる「ん」の省略法、「っ」は省略してしまう、にごる音とのぼす音、「よう音」は1字で書く、もっと早く書く秘密兵器、数字は算用数字で書く、4文章を速記する練習、スピードを早める用具と姿勢、速記文はどこで区切るか、助詞のつかい方5つの原則、助詞が続いたときの書き方、「ある」と「する」は点で書く、打ち消しの「ない」の書き方、助動詞「です」と「ます」の応用法、「ちち・はは」など重音の省略法、変音符号の省略になれよ、文章常用語の速字、「暗記カード」利用と短文練習法、自分の速字を読みなれよ、自分で書いた速字が読めない、クセはできるだけなくせ、反訳できない3つの原因、5こんなとき役立つ速記術、速記利用の3つの分類、パーソナル・ユースのすすめ、学校の講義を速記しよう、会議や講義の要点速記、レポートや現行の下書き、秘書的センスを身に付けよ

う、電話メモのとり方、TV、ラジオ、日記…に応用、歌謡曲で速記の練習をしよう、自分だけの”秘密の日記”に……、6 検定試験の受け方、速記検定のランクと技能度、審査員はここをチェックする、字数と速度のはかり方、さらにスピード上げるコツ、テレコをつかった練習法、反訳練習でミスをチェック、速記検定の受験手続きの仕方、検定試験当日の注意、検定問題文例、① 5 級問題（1）、② 5 級問題（2）、③ 4 級問題、〈付記〉中級・上級をめざす人のために

5 1

書籍

西來路秀男

衆議院式標準速記法原理 創立 30 周年記念出版

1950 年 5 月 15 日

衆友会

まえがき、目次 4、本文 198、正誤表 4p、B5 判

【目次】第一編 基本論、第二章基本理念、第二章基本概念、（一）速記の概念、（二）標準符号の概念、第三章基本要件、（一）速度、（二）連度、（三）頻度、第四章基本原理、（一）基本原理とは何か、（二）基本原理の分類、第二編 符号論、第一章符号の概念、（一）符号の字義と意義、（二）文字と符号、第二章符号の性質（一）速度性、（二）恣意性、（三）規範性、（四）示差性、（五）連続性、（六）融通性、（七）流動性、（八）個別性、第三章符号の構成要素、（一）符号の形象、（二）符号の態様、第四章（一）具体符号と抽象符号、（二）知識符号と運用符号、（三）基本符号と素材符号、（四）表音符号と表意符号、第三編運用論、第一章運用総則、（一）運筆原則、（二）配置原則、（三）単位原則、（四）単語原則、第二章運用各則、（一）運用各側の意義、（二）運用各側の分類、第三章異同弁、（一）異同弁の意義、（二）異同弁の構成要素、〔運用論〕、あとがき、索引

【備考】タイトルは表紙による 非売品

5 2

書籍

財団法人日本簡易速記協会

簡易速記人名録 第 1 部

1952 年 10 月 25 日

財団法人日本簡易速記協会

116p、127×180mm

【備考】都道府県別の人名録

5 3

書籍

衆議院記録部

衆議院速記者養成所五十年史

1968年10月10日

衆議院記録部

序2, 目次4, 本文133, 付録45p, 150×215mm

【目次】第一編（大正七年—昭和三年）、一 設立の経緯、二 初期十年間の概説、三 一期、二期、三期のころ、四 卒業生の入課状況、五 符号の変遷、六 学科について、七 養成規則の改正、八 両院合同採用試験、九 聴講生について、十 仮入学制度、十一 寄宿舎の設置、十二 衆友会の発足、十三 創立十周年記念式典、第二編（昭和四年—昭和十三年）、一 概説、二 標準符号への胎動、三 養成所制度改革案、四 講師制度と学科の充実、五 養成（所）規則の改正、六 聴講生制度の確率、七 衆友会支部の誕生、八 創立二十周年記念式典及び記念事業、第三編（昭和十四年—昭和二十三年）、一 概説、二 標準符号の制定と実用化、三 女子生徒の採用、四 緊急大量養成へ、五 時局下の教官・講師と生徒、六 速記学研究会、七 大戦末期の苦難、八 戦後再建の第一歩、九 養成所規則の改正、十 校舎の変遷、第四編（昭和二十四年—昭和三十三年）、一 概説、二 三年町校舎の落成、三 大量養成の背景と経過、四 創立三十周年記念式典、五 学科、教授陣の整備充実、六 養成所規則の改正、七 生徒の成績向上、八 生徒の生活、九 卒業生の進路、第五編（昭和三十四年—昭和四十三年）、一 概説、二 符号教程、三 用賀校舎へ、四 教授陣及び時間割、五 女子の進出、六 男子確保対策、七 生徒寮の設置、八 最近の就職状況、九 最近の生徒像、むすび、あとがき、歴代人事関係一覧、卒業者氏名一覧、受験者数・入所者数・卒業者数等一覧、養成所規則等改正一覧、衆議院速記者養成所年表

5 4

雑誌

伊東定吉

言葉の寫眞

1919年5月1日

再刊第1号

文泉堂

42p, 150×222mm

【目次】言葉の写真再興の理由（伊東定吉）、冒頭の忍の文字に就て、言葉の写真再刊を歓迎す（田鎖綱紀）、速記界の近情と希望（荒波市平）、エスペラントと速記術（西村繁治郎）、（祝辞）、言葉の写真の最高を祝す（横山雅男）、言葉の写真の再興を祝す（布施孫助）、彙報、雑報数件、与伊東狸伯先生（渡邊勵風）、故川島樗子嬢を弔ふ（元園子）、速記術の独習、

名誉賛助会員、写真版十数葉挿入

【備考】タイトル、再刊、号は表紙による

5 5

書籍

日本速記発表 80 周年記念会

日本速記者名鑑 日本速記発表 80 周年記念

1963 年 10 月 28 日

日本速記発表 80 周年記念会

128p, 149×210mm

【備考】都道府県別の人名録、物故速記者一覧がつく 非売品

5 6

書籍

乙部泉三郎

泉式速記術精解

1944 年 6 月 25 日

再版

梧桐書院

116p, B6 判

【目次】自序、第一章 泉式の基本文字、第二章 基本文字の運筆、第三章 基本文字の簡略法、第四章 長音と促音、第五章 重音と重語、第六章 速記の仮名遣、第七章 数字類の書き方、第八章 略字、第九章 送り仮名の類、第十章 口語の語尾略字、第十一章 「セズ」「スル」の略字、第十二章 敬語及び受身の略字、第十三章 「ナル」「考ヘル」「デア」等の略字、第十四章 其他の略字、第十五章 略字の作製について、第十六章 記号について、第十七章 速記学習上は注意、第十八章 鉛筆と用紙、第十九章 特殊省略法、第二十章 全言速記と速記の修整、第二十一章 速記練習題、第二十二章 泉式短文集、第二十三章 泉式速記法について

5 7

書籍

乙部泉三郎

活字になる原稿の書き方

1951 年 8 月 1 日

三版

信友社

134p, 104×145mm

【目次】序、一 原稿には書き方がある、二 原稿紙、三 たて書きか横書きか、四 文体、五 毛筆とペンと鉛筆、六 文字の書き方、七 草書とかな、八 題と住所姓名、九 原稿の字数、一〇 詩、歌の原稿、十一 読み直しと訂正、一二 活字と校正、一三 当用漢字 当用漢字標準字体 当用漢字音訓索引、一四 現代かなづかいと原稿 現代かなづかい要領

【備考】速記開発者による著書

58

書籍

荒浪清彦

私達の速記術

1954年6月15日

1版

現代思潮社

70p, B6判

【目次】はしがき、1. 私達の速記術、2. 早く上達するひけつ、3. 独得の速記方法を作り出せ、4. 速記仮名文字と本字、5. 仮名文字の構成と綴り方、6. 語尾の長く引く音、7. 同じ音の重なる場合、8. 同行文字のつながる場合の略し方、9. つまる音、10. 数字、11. 地名・人名、12. 工夫から作出される仮名や数字の略記法、13. 仮名文字とその活用で綴った文章、14. 動詞符号、15. ラレ・セラレの書き方、16. 仮名文字の形態を備えた略記法、17. 変体符号、18. 創意工夫から考案される色々な略記法、19. 仮名文字・符号と略記法を応用して書いた実例、20. 質問の要領、むすび

59

書籍

早稲田速記指導部編

早稲田式速記入門

1994年4月25日

20刷

南雲堂

目次vii, 本文168p, 150×210mm

【目次】1 単語を書く、記号を使うことになれよう、1. 記号で書くと早く書ける、2. 身の回りにあるたくさんの記号、3. 速記技術は記号の集団、4. 点と線とのシンフォニー、5. 早く書かないでもいい速記文字、6. ”古い”速記の歴史、速記学習の前に、1. 速記の学習とは、2. 速記学習の用具、3. 正しい姿勢で、4. 社会と速記、5. 分速150字の

速さとは、五十音で速記文字になれる、1. 長さ1センチの8種類の線、2. 一つの単語は続けて書く、3. 長さ2センチの速字、4. 字尾に「小円」をつける、5. 字尾に円をつける「う列」、6. 長さ5ミリの線、7. 複線から続けるとき、単語の範囲を広げよう、1. 「ん」で始まることばはないが、2. 間にはさまる「っ」、3. さ行・た行の変規文字、4. にごる音とのばす音、5. 「電気」と「天気」は同じ速字で、6. 一つの速字で書く「よう音」、7. 二音文字になれる、2文章の速記、単語から文章へ、1. 助詞までを続けて書く、2. 助詞の速字、3. 助詞と助詞が続くときの書き方、4. 「ある」と「する」、5. 打消しの「ない」、6. 「です」と「ます」、7. 数字はふつうに書く、8. 「私」は専用速字で、9. 短文練習50題(1)、10. 短文練習50題(2)、11. 短文練習50題(3)、12. 短文練習50題(4)、13. 短文練習50題(5)、3速記力を伸ばす、速記検定を受けよう、1. 「速度を上げる」とは、2. 速度を上げる練習、3. 字数のはかり方、4. 速記検定とは、5. 級と速度、6. 検定試験の受け方、7. さらに上級をめざす人のために

60

書籍

谷田達彌

独学で上達が早いモリタ式速記法 速記の習い方

1994年1月10日

20版

金園社

309p, 130×185mm

【目次】はじめに、速記のはなし、1速記とは、2速記の速度について、3速記の歴史、4速記方式のいろいろ、5主なる速記教育機関一覧、6どの方式がよいか、速記の実技、速記の学習について、1まず原則を、2符号化の勉強法、3文字化の勉強法、専門速記者を志す人々へ、1衆参両議院の速記、2新聞社の速記、3地方議会（県会、市会）の速記、4速記事務所と自由速記者、5裁判速記について、6男性速記者と女性速記者、7日本速記協会について、おわりに

【備考】発行年月日、版は表紙カバーによる

61

書籍

荒浪清彦

模範日本語速記術

1935年8月10日

千倉書房

はしがき4, 目次7, 本文158p, 130×190mm

【目次】はしがき、1. 速記術の定義、2. 速記文字の起原、3. 速記の術語、4. 理想的速記文字、5. 速記術の効用、6. 学習者の資格、7. 速記用文具類、8. 学習方法、9. 速記文字の種類、10. 音韻の区別、11. 速記文字の原形、12. 母音符号半母音符号父音符号の割出し方、13. 速記文字の記憶法、14. 子音符号の作方、15. 単符号表、16. 単符号の接続、17. 速記術と仮名遣、18. 長音符号、19. 重音符号、20. 同行音符号省略綴法、21. 詰音符号、22. タテト用法、23. 数字、24. 単符号の練習、25. 句点、引用、疑問、挿入、注意、別項等に対する印に就て、26. 単符号と特種符号に就て、27. 動詞符号、28. 動詞符号の組織、29. 速記実務と動詞符号の書方、30. 動詞符号の練習、31. 略記符号、32. 臨機符号、33. 変態略符号、34. 略字符号の練習、35. 質問の仕方、36. 技術のコツ、附録、速記問答集、1. 速記は心身を過勞せしめる職業なりや、2. 速記術をフオノグラフキーと云ふ理由、3. 速記者の需要は将来益々盛んと成るでせうか、4. 何故外国では婦人が多く速記者と成るか、5. 外国に於ける速記術の需要に就て知りたし、6. 速記に上達したら就職口を世話して貰へる機関ありや、7. 本書に依つて独習の上直接先生の指導を受けられますか、8. 駿河半紙や鉛筆等速記用文具品は何所へ注文したら手に入るでせうか、9. 速記学習上参考と成る雑誌其他の印刷物有りや、10. 本書の符号は速記者間一般に通用するものなりや、11. 日本の国語漢字の辞用が速記術に及ぼす影響とは如何なる事か、12. 速記する時の机の位置を問ふ、13. 田舎に居り乍ら専門速記者に成りたいのですが何うしたら成れますか、14. 速記術は独習で成功するものなりや、15. 速記者と成るには十分間何字位書ければ宜しきや、16. 既に半年も練習したが一向上達せず日本字で書いた方が早い位です。果して速記者として独立出来るものなりや、17. 速記文字の記憶方法を問ふ、18. 速記したものを翻訳する際に読めぬ字の有つた場合は如何にすれば宜敷きや、19. 速記申英語の出た場合は如何にしたら宜敷きや特別の符号ありや、20. 濁音が旨く書けない、力を入れると徒らに芯を折つたり紙を破つたりするが良き方法ありや、21. 濁音を太く書かなくとも太く書く心持が符号に出れば良いとは何う云ふ訳ですか、22. 略字符号を作る工夫考案の程度如何、23. 速記を勉強するに適する年齢及び学問の程度、24. 速記者には学問常識が必要だと云ふ事を実例に就いて説明願ひたし、25. 速記者に必要な参考書を詳しく御知らせ下さい、26. 速記料を定める標準、27. 民間で速記者を多く採用して居るのは何所か、28. 詰音や数字符号に使はれて居る『点』を更に活用する途無きや、29. 変態略符号は何の位用ゐられて居りますか、30. 色々と略字を考へて居りますが何か変つた工夫は有りませんか、31. 書翰文用略字を示されたし、32. 速記実務上の心得を問ふ、速記練習問題、国民経済の立直しと金解禁 大蔵大臣 井上準之助、余が処世主義 子爵 澁澤榮一、人格と金銭 文学博士 三宅雄二郎、株主総会議事速記録の一部

62

書籍

熊崎康人

百九十字速記術三十日講義

1918 年 10 月 21 日

長久社書店

412p, 126×188mm

【目次】一、速記は誰にも必要です、一、速記は誰にも出来ます、一、たつた百九十字の熊崎式、一、条件や資格は要りませぬ、一、資本は要らず只儲かる、一、僅かの勉強でも役に立つ、一、一生便利で一代ニコ／＼、一、五十音の記号文字、一、速記上の仮名遣ひ、第一日 ア行の説明 同 ア行長音のお話、第二日 鼻音のお話 同 ワ行の説明、第三日 カ行の説明、第四日 長音の現し方、第五日 カ行と縮字の話（一）、第六日 カ行と縮字の話（二）、第七日 濁音の書き方、第八日 促音の書き方 同 複語の書き方、第九日 サ行の説明、第十日 サ行と縮字の話、第十一日 タ行の説明 同 タ行と縮字の話 同 此事実を如何せん、第十二日 ナ行の説明 同 ナ行と縮字の応用、第十三日 ハ行の説明 同 ハ行と縮字の応用、第十四日 パ行（半濁音）の説明、第十五日 マ行の説明、第十六日 ヤ行の説明、第十七日 ラ行の説明、第十八日 カ行拗音の説明 同 サ行拗音の説明、第十九日 タ行拗音の説明 同 ハ行拗音の説明、第二十日 ナ行拗音の説明 同 マ行拗音の説明 同 ラ行拗音の説明、第二十一日 送り仮名の書き方、第二十二日 敬語送り仮名の書き方、第二十三日 口語略符のお話 同 口語略符と鍵の働き、第二十四日 「する」と「せず」のお話 同 「する」と「せず」に鍵の応用 同 「する」と「せず」に引伸し法、第二十五日 「されき」と「されし」の現し方 同 「ならず」「からず」「あらず」の変化 同 風変りな肯、否定線、第二十六日 略字のお話（一）、同 嗚呼意外略字の罪 同 略字と毒薬モルヒネ 同 たつた六十五の略字、第二十七日 略字のお話（二） 同 驚くべき十一様の変化 同 更に面白い三の変化、第二十八日 略字のお話（三） 同 略字同士及其他の綴方 同 名刀正宗と略字 同 壮快なる略字の働き方、第二十九日 数字の書き方 同 書き漏さば百年目、第三十日 面白い省略法のお話 同 成語格言等を簡略に書く法 同 地名人名を省いて書く法 同 人名地名を省略する第二法 同 言葉を省いて書く方法 同 外国語は如何に取扱ふか、一、練習の仕方に就て 一、千里の道も一歩より始まる 一、時の推移は進歩を意味す、一、広く速記を用ふる人々へ 一、活用範囲底知れず、一、パンを求むる者よ来れ 一、一人前になる迄には 一、汝の口は糊せられん、一、福音を利用する第三者へ、一、速記応用の実例、一、符号は何から割出したか

【備考】タイトルは内表紙による

63

折り込み

鈴木要蔵編輯兼発行人

速記専門学校校報

1905 年 10 月 21 日

第一号

速記専門学校

四面, 265×396mm (一面のサイズ)

【一面】発刊之主旨、発刊の辞をなすと云爾明治三十八年十月速記専門学校校報課、速記術が軍隊に必要な理由 (本校講師福田先生談話) 【二面】開校六周年並校舍新設ニ付校告、欧米各国速記学者の年表、●緊急校告、謹而祝速記専門学校校報之発刊 (速記専門学校々友会)、●予告 【三面】●速記者の就職方面、●端書便り、●雑報、●雑録 【四面】広告 16 種

6 4

折り込み

鈴木要蔵編輯兼発行人

速記専門学校校報

1906 年 1 月 15 日

第五号

速記専門学校

六面, 265×396mm (一面のサイズ)

【一面】●市町村長に望む、学説 欧米速記術諸種の名称 (前号の続) (本校講師福田先生談話) 【二面】三十九年度新学期開始特典校告 (速記専門学校改称日本速記専門学院)、●速記に関する欧米二十大家讃評、●端書便り 【三面】速記学の研究を勧む、教科書編纂上の優
点、◎我が新作文字と教授法、稟告 (速記専門学校校外生教授 帝国速記学開祖 福田正風)
【四面】日本速記専門学院校外生規則 (文部省令示達改称 日本速記専門学院 明治三十二年開校) 【五面】●速記者は社会の如何なる方面に用ゐらるゝものなるか、●福岡支部の再興
(一月六日 福岡支部 歩兵軍曹 毛屋半蔵) 【六面】広告 13 種、○元文部次官辻信次君曰く

6 5

一枚物

速記専門学校

速記専門学校校外生規則／速記学の研究を勧む

両面刷り, 265×396mm

【表】速記専門学校校外生規則 (速記専門学校 明治三十二年開校) 【裏】速記学の研究を進む、稟告 (速記専門学校校外生教授 米国速記学専攻 帝国速記学開祖 福田正風)

【備考】広告

6 6

書籍

源綱紀述、丸山平次郎速記

速記的活算術 全

1891年3月5日

東洋社

46p, 四六判 (130×185mm)

【目次】総論、第一章 定義、第一節 速記的数字の性質、第二節 和漢洋数字の性質、第三節 速記的数字の起源、第四節 速記的数字の称呼、第五節 速記的一の字の種類、第二章 書法及連綴、第六節 速記的数字の書法、第七節 速記的数字の連綴、第八節 零の略記、第九節 二個以上の零圈、第十節 零圈を附したる称呼、第十一節 数字の間にある零圈、第三章 筆算法及例題、第十二節 加法及び其例題、第十三節 減法及び其例題、第十四節 乘法及び其例題、第十五節 除法及び其例題、第十六節 分数比例及び雑例題、第四章 結論

【備考】タイトル、著者は表紙による

67

書籍

中根正世

中根式速記

1952年4月25日

中根速記学校出版部

212p, 四六判 (130×188mm)

【目次】題字、優勝旗、全国大会、中根式速記文字画、中根式速記、文化の華、実に国家の一代損失、速記の三大武器、小学校から速記仮名、第一章 基本文字、基本文字だけで何故早いか、文字は正速美 漢字は男尊女卑、「級」制度、速記者と男女学歴年齢、第二章 練習、第三章 詰音、第四章 長音、第五章 ヨウ短音、基礎文字まで、速記、第六章 最大線、第七章 助詞、第八章 上段、第九章 下段、第十章 両大カギ省略、第十一章 特殊交サ平行(一)、第十二章 全(二)、第十三章 中間小カギ、第十四章 インツクキ法、第十五章 その他、立案の方針、講演記録表

【備考】タイトルは内表紙による p.6 目次に「題字は昭和三年献上、天覧を給わつた旧著のを再録」と印刷あり

68

書籍

田鎖一

最新田鎖式 日本速記法詳釈

1950年11月3日

ジープ社

序 8, 本文 326p, 160×190mm

【目次】序、緒説 如何にして速記を学ぶべきか、第一章 総説、第一節 速記の意義、第二節 速記の原理(速記の五要件)、第三節 日本語の音別、第二章 速記基礎音字の組織、第一節 速記字の原則、第二節 速記字組織の基準、第三節 速記字源図とその分解、第四節 速記基礎音字表解説、第三章 速記字連綴の法則、第四章 拗音字(拗音字形の法則)、第五章 濁音字(濁音字の書き方)、第六章 長音字(長音字の書き方)、第七章 撥音字(撥音字の書き方)、第八章 促音字(促音字の書き方)、第九章 縮字法、第一節 同行縮字、第二節 一音縮字、第三節 二音縮字、第十章 疊音字、第十一章 数字、第十二章 標識、第一節 文章標、第二節 校正標、第三節 情景標、第十三章 略字法、第一節 略字と助字の関連性、第二節 略字組織の基準、第三節 略字の大小の法則、第四節 略字の位置の法則、第五節 略字の形状の法則、第六節 動詞の名詞形、第七節 略字の例外的取扱、第八節 略字記憶の方法、第十四章 助字法、第一節 助字の綴り方、第二節 助字の種類、第三節 第一類助字、第四節 第二類助字、第五節 過去助字、未來助字と尊敬助字との形の関係、第六節 第三類助字、第七節 アルの省略記法、第八節 ナクの省略記法、第九節 第四類助字、第十節 助字の結合、第十五章 疊句略記法、第十六章 練習法、第一節 速記字の記憶、第二節 清書日課、第三節 速書き練習、第四節 速く書けない理由、第五節 同一文章の反覆練習、第六節 速度増加の手段、第七節 速記速度の標準、第八節 進行表の作製、第九節 蓄音機の利用法、第十節 ラジオの利用、第十一節 実地練習、第十二節 復文練習、第十七章 速記技倆の段階(級制)、第十八章 速記実務要項、第一節 準備、第二節 速記中の注意事項、第三節 事後の整理と調査研究、第四節 速記台帳の作製、第五節 依頼者に対する啓蒙、第六節 親切心・至誠心、練習例題

【備考】六十七年式日本速記法詳釋

69

書籍

源綱紀

増補訂正新式速記術例題詳解 附練習問題

1904年12月7日

訂正増補第六版

青木嵩山堂

107p, 四六判 (128×187mm)

【備考】目次なし タイトルは表紙による

70

書籍

臼井茂著、臼井スエ編

速記論考

1976年5月10日

静岡速記士会

278p, 135×194mm

【目次】第一部 速記の話、速記の話、速記雑記、速記を志す人のために、速記愛情論、特価品と高級品、演説と速記、第二部 県議会の速記席から、静岡県会の今昔、りっぱな会議録作成のために、県議会の演説速度、ヤジと速記、第三部 速記の職務をめぐって、地方議会速記士の責任と限界、私の会議録観、反訳論、修文問題、修文論、会議録作成上の新しい動き、能率的な反訳について、第四部 速記士の養成、研修機関設置の提唱、地方議会速記士の養成問題とその対策、天命、第五部 速記者の地位向上と組織の強化、速記者の地位向上における諸問題、職階制と県議会速記、地方議会速記士の給与について、地方議会速記士の発展に対する一考察、議会速記士の精進と速記手当、地方議会速記者の身分について、激動する速記界、協会支部組織の強化を、協会への希望、第六部 速記と人生、速記と人生、速記二かけた50年の回顧、赤根谷さんと越智さん、書簡から、速記の虫、速記の道、句集から、おもかげをしのんで、臼井さんを悼む（荒井庚子郎）、京城時代の臼井さん（坂田東助）、三十年前を偲んで（小松茂）、誠実で親切な人柄（五十嵐文雄）、俳人としての臼井さん（吉田哲星子）、誇り高き人（坂牧馨）、交友二十年を思う（繁本誠之助）、初の出会いで親戚に（坂本清）、遺作集の発刊に際して（内桶希哲）、追憶（石田松雄）、臼井さんの夜ばなし（相良頼昭）、風樹の嘆（栗田純男）、「把手共行」の一人に加えていただいて（山本平八郎）、大きかった臼井さん（水口久子）、遺稿集出版にあたって（臼井スエ）、あとがき（大沢喜雄）

7 1

書籍

裁判所書記官研修所

養成部第一・二・三部 速記部 書記官基礎研修 修了者名簿

1985年6月

裁判所書記官研修所富士見同窓会

284p, 146×206mm

【目次】現教官、歴代所長、歴代教官、修了者（一部一期～三五期（昭和二六～六〇）、二部一期～三五期（昭和二七～六〇）、三部一期～三期（昭和三一～三四）、書記官基礎研究修了者（昭和五〇～五九）、速記部一期～三五期（昭和二七～六〇））

【備考】表紙に「昭和六〇年一月一日現在」と印刷 裏表紙に「道林直恵」と判あり

7 2

書籍

裁判所書記官研修所

養成部第一・二・三部 速記部 書記官基礎研修 修了者名簿

1990 年 10 月

裁判所書記官研修所富士見同窓会

388p, 150×210mm

【目次】現教官、歴代所長、歴代教官、修了者（一部一期～四〇期（昭和二六～平成二）、二部一期～四〇期（昭和二七～平成二）、三部一期～三期（昭和三一～三四）、書記官基礎研究修了者（昭和五〇～平成元）、速記部一期～四〇期（昭和二七～平成二））

【備考】表紙に「平成二年一月一日現在」と印刷

7 3

書籍

丸山平次郎

言語の写真法

1885 年 11 月 13 日

英学自宅独習会（日本傍聴筆記学会大阪支会）

大阪森玉林堂蔵版

序 8, 本文 90, 跋 3p, 四六判（130×190mm）

【目次】第一章 総論、第二章 記号の組織及詳解、第三章 記号の綴り方、第四章 長く呼ぶ音の書き方、第五章 反て呼ぶ音の書き方、第六章 詰て呼ぶ音の書き方、第七章 畳て呼ぶ音の書き方及び用ひ方、第八章 詞尾の略記、第九章 語格の略記（一に、てにをは）、第十章 数字の略記、第十一章 略語、第十二章 略文記号、第十三章 加点法（語格及働詞）、第十四章 節譜、第十五章 句読法、第十六章 感詞の標、第十七章 記号連綴の例

【備考】タイトルは内題による 表紙タイトル「ことばの写真法 一名筆記学階梯」

7 4

書籍

丸山平次郎

言語の写真法

1886 年

筆記学生募集所

本文 89, 例題 42p, B6 判

【目次】第一章 総論、第二章 記号の組織及詳解、第三章 記号の綴り方、第四章 長く呼ぶ音の書き方、第五章 反て呼ぶ音の書き方、第六章 詰て呼ぶ音の書き方、第七章 畳て呼ぶ音の書き方及び用ひ方、第八章 詞尾の略記、第九章 語格の略記（一に、てにをは）、第十章 数字の略記、第十一章 略語、第十二章 略文記号、第十三章 加点法（語格及働詞）、第十四章 節譜、第十五章 句読法、第十六章 感詞の標、第十七章 記号連綴の例

【備考】タイトルは内題による 表紙に「会議演説討論説教対話雑話筆記学自宅独習誌／第一回／筆記学自宅独習生募集所」と印刷 pp. 7-8 抜け pp. 5-90 は73と同じ これ以降に21ページ分、凡例・例題・解答がつく 『筆記学自宅独習誌』（国立国会図書館蔵、特30-718）と類似

75

書籍

林茂淳

訂正増補早書き取りの仕方

1889年8月30日

第四版

興文社、石川商店

序4、はしがき6、附言4、緒言6、目録2、本文45p、B6判

【目次】第四版序（中村正直）、JOBUN（M. TOYAMA）、はやがきとりのしかた はしがき（おほつきふみひこ）、訂正増補早書き取りの仕方第四版附言（林茂淳）、早書き取りの仕方〔第一版〕緒言（林茂淳）、目録、第一章 総論、第二章 記号、第三章 記号の綴り方、第四章 長音の書き方、第五章 反音の書き方、第六章 詰音の書き方、第七章 疊字の書き方、第八章 書き方に付ての大凡の定め、第九章 記号連綴の例、附記 用筆及び用紙

【備考】タイトル、著者名は表紙による

76

書籍

佐藤正弥

速読み・速書き・記憶術

1988年2月20日

初版

実業之日本社

217p、105×172mm

【目次】はじめに、第1部 速読み・記憶術、第1章 新聞コラム・トレーニング、記憶力による取材、『怒りの葡萄』の挿話、音読から目読に、記憶の凹凸、ある高校生の訓練成果、第2章 記憶は思ったよりも簡単だ、記憶の序列ナンバーのつけ方、50語暗記の実際、イメージの優位性、第3章 読書の記憶のための雑学、呼吸法と気功術、3分間の眼球トレーニング、素読の聴覚器官からの効果、右脳を活用するために、第2部 速書き・記憶術、第1章 仮名筆記法、カタカナとひらがな、カタカナに慣れること、促音「ッ」と終わりの「ン」を省く、長音の「ウ」の省略、「ッ」と「ン」と「ウ」を省く、2音目の月一君、さ行の拗音、え列の活用、ひらがなの徹底的な活用、第2章 ワープロを自分に馴らせ、拗音を単語

登録する、単語登録の基準、第3章 数字の記憶術、本格的な暗記法、数字記憶法の応用、
第3部 実践！速読み・速書き・記憶術、第1章 片っ端から覚えてしまおう、第2章 コ
ラム・トレーニング、あとがき

77

書籍

丸山平次郎

言語の写真法

38p, 130×178mm

【目次】第一章 総論、第二章 記号の組織及詳解、第三章 記号の綴り方、第四章 長く
呼ぶ音の書き方、第五章 反て呼ぶ音の書き方、第六章 詰て呼ぶ音の書き方、第七章 疊
て呼ぶ音の書き方及び用ひ方、第八章 詞尾の略記、第九章 語格の略記（一に、てにをは）、
第十章 数字の略記、第十一章 略語、第十二章 略文記号、第十三章 加点法（語格及働
詞）、第十四章 節譜、第十五章 句読法、第十六章 感詞の標、第十七章 記号連綴の例

【備考】奥付なし 発行年月日、発行所不明 タイトルは内題による 表紙タイトルは「会
議演説討論説教対話雑話筆記学自宅独習誌／第一回／筆記学自宅独習生募集所」 表紙に
旧小判4銭切手（1876（明治9）年～）、尾張稲葉の消印がつく 蔵書印「太田瑞／穂之記」
pp. 5-31 73の第十一章までを収録

78

書籍

日本速記専門学院編

独学自在最新式速記術

40p, 134×189mm

【備考】39ページ以降、奥付ともども脱落 目次なし 発行年月日、発行所不明 タイト
ル、編者の表記は内題による 表紙タイトル「三十日間卒業／独学自在最新式速記術教授書
／日本速記専門学院蔵版」 国立国会図書館デジタルコレクションで類似本『最新式速記術
教授書：独学自在』（長谷部末吉、日本速記専門学院、62ページ、明治35年、請求記号8
2-553）参照可能

79

書籍

酒井寅喜

速記術入門

1964年1月10日

4版

実業之日本社

222p, 110×172mm

【目次】はしがき、1 速記とはどんなものか、一時間で覚える基本文字、速記術はこうして生まれた、速記文字のいろいろ、符号単純化のプラス・マイナス、ソクタイプとは、アマチュア速記の活用法、速記利用の範囲は広い、2 速記術を覚えるには、何式の学校をえらぶのがいいか、速記練習の心がまえ、速記独習にはテープの利用を、速記はどういう人に適しているか、女の速記者か男の速記者か、アマとプロの違い、速記者の技術検定試験、3 実務速記の心得帳、用紙と鉛筆のえらび方、大きい字か小さい字か、原文帳を紛失するな、会議・座談会・対談のとり方、会議・座談会の舞台装置、速記中の質問の要領、まちがいやすい符号・不得意な符号、速記の翻訳時間はどれだけかかるか、翻訳のスピード・アップを図るには、テープと速記、テープ録音の仕方、4 速記者の「文章読本」、聞き誤りの多い日本のことば、「は」と「が」のちがい、笑いの描写、「そこで煙草をとって」、句読点やコンマなど、句読点を打てれば一人前、語尾を書きとること、丹念に書きこむこと、ひきしまった文章にするには、原稿の書き方、原稿の文字の大きさ、横書き原稿の注意点、悪文の責任、5 きびしいプロの世界、締切厳守が最大のサービス、うぬぼれは悪徳、先輩の教えをすなおに聞くこと、速記者のマナー、闇速記・居眠り速記、歩きながらの座談会、符号を使わず日本文字でも、速記者にも得手不得手がある、速記以外の持ち味が必要、速記者の哀歓、速記者泣かせの難物番付、6 速記者からの発言、編集者と速記者、司会者と速記者、カメラマンと速記者、通訳と速記者、速記文字の活字化、英文速記と日本語速記、速記分野の変遷、＜付録＞独習のための速記教本

80

書籍

中根正世

通俗中根式速記法

1927年11月19日

三版

新日本速記学会

237p, 132×192mm

【目次】本式普及沿革概要、はしがき、識者に檄す！、社会と速記、学生界、政治界、軍事界、警察界、教育界、実業界、司法界、その他、速記者について、本論、第一章 速記法の組織、第二章 基本文字、第三章 長音、第四章 ヨウ音、第五章 インツクキ法、第六章 助詞、第七章 上段、第八章 下段、第九章 中間小カギ、第十章 最大線、第十一章 特種略法、第十二章 立案の根本方針、附録、学生諸君及び一般筆記難の人々へ、通俗中根式速記法、幾日で成功するか、練習について、練習問題

8 1

雑誌

早稲田式速記普及会、川口渉

早稲田式速記講義録

1950年6月25日

第1巻

早稲田式速記普及会

76p, 149×211mm

【目次】序(同志に捧ぐ——稻毛金七)、自序(脱稿に際して——川口渉)、序(出版に際して——早稲田式速記普及会)、第一編 速記法總論、第一章 速記法概念、第一節 速記の定義、第二節 速記の用語、第三節 速記は民衆の文字?、第二章 速記用文房具と其使用方法、第一節 書記具と其の使用方法、鉛筆、速記用シャープと万年筆、書記具の使用法、書記具の持方、不正な持方と正しい持方、運筆法、第二節 速記用紙(原文用紙—速記用駿河半紙—反読原稿用紙—暗記用カード)、第三章 速記学術の習得方法、第一節 単独練習方法、第二節 共同練習方法、第三節 速記の座席、第二編 速記法本論基本篇、第一章 速記假名、第一節 清音(清音とは—母音とは—父音・子音・半母音とは—行と列)、第二節 撥音(鼻音・反音或ハ半音)(字頭一字尾—ンはどこに潜んで居る?)

8 2

雑誌?

清澤準次編輯

傍聴符号筆記法自習録

1885年11月

第6~10編

自習舎

第6編四丁、第7編四丁、第8編四丁、第9編四丁、第10篇四丁, 120×185mm

【備考】奥付なし 書誌情報は内表紙による 表紙に「速記自習誌」と墨書き 仮綴じによる合綴本

8 3

書籍

兼子次生

タンフォノピア 速記から見た日本語

1991年5月5日

速記文化研究所

目次等8, 本文296p, 128×184mm

【目次】プロセス、まえがき、第1章 言葉、1. はじめに、1-1日本語の地位、1-2言語能、1-3弥生語——日本語、その特徴、1-4成人の理解語彙は3、4万語、1-5時間要素注目へ転じた文字書き技術、2. 日本語表記法と表記単位、2-1速記の性質、第2章 ふしぎな音の世界、1, こそあど言葉、1-1こそあど言葉、2. 擬音語、擬態語、2-1つり言葉、2-2んり言葉、2-3 2 (AB)構造、第3章 動詞、1. はじめに、2. 日本語動詞の語数、3. 切り口の転換、4. 動名詞、5. 動詞の素、6. 動詞の素 [U]、7. 動詞の素 [K] または [G]、8. 動詞の素 [S]、9. 動詞の素 [T]、10. 動詞の素 [N]、11. 動詞の素 [Y]、12. 動詞の素 [B]、13. 動詞の素 [M]、14. 動詞の素 [R]、15. C動詞要 JP、16. C動詞の活用、17. 動詞の接辞、17-1 動詞の派生展開における母音変化、18. まるめる動詞、19. かるける動詞、20. なるねる動詞、21. わるえる動詞、22. 動詞の素、22-1 Suru 動詞、22-1 Suru 動詞の展開、22-2 Suru 動詞の活用、23. Kuru 動詞、23-1 K 動詞の展開、23-2 来るの活用、24. IR 動詞、24-1 IR 動詞の展開、24-2 IR 動詞の活用、25. ER 動詞、25-1 ER 動詞の活用、25-2/R/が入る活用、26. AR, OR 動詞、26-1 介母/a/のつく活用グループ、26-2 介母/i/のつく活用グループ、26-3 介母/u/のつく活用グループ、26-4 介母/e/のつく活用グループ、26-5 介母/o/のつく活用グループ、27. 動詞接尾語、27-1 否定「ない」/nai/, 27-2 使役「ASeru」、27-3 受け身、尊敬、丁寧、自発「AREru」、27-4 当為「NAKEREBANARANAI」、27-5 謙譲、丁寧「MAS」、27-6 過去「TA」、27-7 接続形「TE」、27-8 名詞化、複合化「I」「E」、27-9 並列、進行「NAGARA」、27-10 願望「ITA」、27-11 現在形、言い切り「u」、27-12 連体形「u」、27-13 否定推量、意思「MAI」、27-14 推量、伝聞、様態「RASII」、27-15 仮定、条件「NARABA」、27-16 許容、譲歩、仮定「EBA」、27-17 可能「ERU」、27-18 命令「EYO」、27-19 呼び掛け「ROUYO」、28. 色につく接尾語、29. 自動詞と他動詞、30. 可能動詞と可能表現、30-1 ER 動詞、第4章 字音語、1. はじめに、2. インクツキ法、2-1 はじめに、2-2 字音語の拘束性、第5章 慣用語法、1. 話の位相、2. モジュール、3. 助詞と補助用言の仲間、3. 補助用言、3-1 はじめに、3-2 「思います」の類型、3-3 「ある」の類型、3-4 「ございます」の類型、3-5 「です」の類型、3-6 「おります」の類型、3-7 「いたす」の類型、3-8 「その他の慣用表現」、4. 補助用言の接続、4-1 はじめに、4-2 補助用言の語尾接続、第6章 その他の品詞、1. はじめに、2. 助詞、2-1 格助詞、2-2 接続助詞、2-3 副助詞、2-4 終助詞、3 接続詞、4 名詞につながる言葉、5 形容詞、5-1 形容詞とは何か、5-2 形容詞のタイプ、5-3 形容詞の名詞化、5-4 I と NA の形をとる形容詞、5-5 擬音語、擬態語と形容詞、5-6 慣用句と速記法での書き方、追補 和語の音とリズム、おわりに、索引

8 4

書籍

三村侑弘

新版 タテ書き速記

1964年9月28日

東栄堂

328p, B6判

【目次】速記の開眼(二之宮英雄)、まえがき、1 速記カナ文字と符号、2 速記の学習に倦きて来て人のために、3 人に読める速記文字、4 不断の錬磨ということ、5 略字について、6 省略法、7 話の聞き方の技術、8 速記の用具とその使用方法、9 速記文字練習上の注意、10 速記文字の活用法、11 タテ書き速記の出来るまで、付録 ※タイトルは内表紙による

【備考】15に同じ

8 5

書籍

丹羽瀧男

速成実験 応用速記法

1907年7月30日

同文館

11, 233p, 150×228mm

【目次】上編 普通速記法、第一章 速記字源及単音并複音文字、第一節 速記字源、第二節 単音、第三節 複音、第二章 四声の区別及縮字法、第四節 反声、第五節 長声、第六節 急声、第七節 疊声、第八節 縮字法、第三章 数字及数字と諸種の書方、第九節 数の単位、第十節 数の複位、第十一節 数字と他の数へ読の書方、第十二節 分数及「パーセント」割合の書方、第十三節 数字と年月日及時刻の書方、第十四節 数字と金銭及量目の書方、第四章 後置詞及各種語尾の略字、第十五節 後置詞の略字、第十六節 各種語尾の略字、第十七節 動詞語尾の略字、第十八節 後置詞略字と各種語尾略字との連綴に就て、第五章 符標及朗読演説速記練習法、第十九節 句読標及校正標、第二十節 感声及標語、第二十一節 朗読演説速記の練習法、下編 高等速記法、第一章 略字及略字使用の諸方式、第一節 動詞略字、第二節 動詞語尾変化法其一(口語体)、第三節 自動的及他動的語尾変化法、第四節 動詞語尾変化法其二(文語体)、第五節 動詞語尾變化的接続法、第六節 各種の略字、第七節 各種の略字に動詞語尾変化法を応用し得る場合、第八節 書翰的略字使用法、第二章 略語略文の法則、第九節 普通略語法、第十節 特別略語法、第三章 臨機的省画減筆の法則、第十一節 熟語又は固有名詞の省略法、第十二節 後置詞の省略法、第十三節 助動詞の省略法、第十四節 成句成文の省略法、第十五節 實際速記の練習法、

附録、◎速記方式改正私見、◎速記反文上注意すべき事項、◎質問規則、◎速記学会設立
趣意書並規則

【備考】タイトルは内表紙による

86

書籍

熊崎康人

改訂 百九十字速記術独修

1920年2月11日

再版訂正

長久社書店

はしがき4, 本文412p, B6判

【目次】一、速記は誰にも必要です、一、速記は誰にも出来ます、一、たつた百九十字の熊崎式、一、条件や資格は要りませぬ、一、資本は要らず只儲かる、一、僅かの勉強でも役に立つ、一、一生便利で一代ニコ／＼、一、五十音の記号文字、一、速記上の仮名遣ひ、第一日 ア行の説明 同 ア行長音のお話、第二日 鼻音のお話 同 ワ行の説明、第三日 カ行の説明、第四日 長音の現し方、第五日 カ行と縮字の話(一)、第六日 カ行と縮字の話(二)、第七日 濁音の書き方、第八日 促音の書き方 同 複語の書き方、第九日 サ行の説明、第十日 サ行と縮字の話、第十一日 タ行の説明、第十二日 ナ行の説明、第十三日 ハ行の説明、第十四日 パ行(半濁音)の説明、第十五日 マ行の説明、第十六日 ヤ行の説明、第十七日 ラ行の説明、第十八日 カ行拗音の説明、第十九日 タ行拗音の説明、第二十日 ナ行拗音の説明、第二十一日 送り仮名の書き方、第二十二日 敬語送り仮名の書き方、第二十三日 口語略符のお話、第二十四日 「する」と「せず」のお話、第二十五日 「されき」と「されし」の現し方、第二十六日 略字のお話(一)、第二十七日 略字のお話(二)、第二十八日 略字のお話(三)、第二十九日 数字の書き方、第三十日 面白い省略法のお話、一、練習の仕方に就て、一、広く速記を用ふる人々へ、一、パンを求むる者よ来れ、一、福音を利用する第三者へ、一、速記応用の実例、一、符号は何から割出したか

87

書籍

石村禰行

かな文字から導き自然に覚える石村式やさしい速記読本

2002年2月15日

文芸社

105p, B5判

【目次】まえがき、基本文字、文例1 かな文字から速記文字へ、文例2 若者は真実を求めている、いろは順、とりな順、濁音・半濁音、「ン」の書き方、「い」の大円使用、「ん」の書き方、繰り返し記号、唱歌、文例3 生命のとうとさ、「い」の2音1線化、文例4 自殺をするとどうなるか、文例5 生命の旅路、文例6 不思議な行列、文例7 類をもって集まる、文例8 道徳教育、補足、結びの言葉

88

書籍

松田儀一郎・日本放送協会編

同音語類音語

1941年7月30日

松田儀一郎、日本放送協会

例言、凡例4、正誤表4、947p、A5判

【備考】タイトルは内表紙による 頭音検索により同音語・類音語を引く

速記録の部

1

その他

第貳回定時株主総会津田社長演説速記録

1940年1月25日

鐘淵実業株式会社

4p, 150×223mm

【備考】タイトル、発行年月日、発行所は表紙による 付『第壹回営業報告書』(本文に1939年7月7日付の報告書であることが記されている)

2

書籍

明治四十三年十月臨時千葉県会議事速記録 完

1910年11月28日

第1号～第3号

千葉県庁

第1号22p, 第2号10p, 第3号5p, 142×220mm

【目次】第一号、一開会式、一議員席次、一議案送付ノ件、一参与員氏名通知ノ件、一議案ニ対スル知事ノ説明、一議員異動報告ノ件、一会議録署名員選挙ノ件、一第三号議案千葉県議員名誉職参事会員費用弁償額及其支給方法改正ノ件、一名誉職参事会員全補充員選挙ノ件、一第三号議案二、三読会、一議案調査ノ為メ休会ノ件、第二号、一第一号議案千葉県債起債及償還方法一読会、一第二号議案明治四十三年度千葉県歳入歳出追加予算一読会、一第四号議案明治四十三年千葉県罹災救助基金歳入歳出追加予算一読会、一第五号議案千葉県債旧債償還繰延ノ件一読会、一第六号議案明治四十三年度千葉県歳出更正予算一読会、一第一号議案二読会、一第二号議案二読会、一第四号議案二読会、一第五号議案二読会、一第六号議案二読会、第三号、一第一号議案、第二号議案三読会、一第四号議案三読会、一第五号議案三読会、一第六号議案三読会、一閉会式

【備考】速記者不明 タイトルは内表紙による

3

その他

明治四十三年通常滋賀県会会議録

1910年12月15日

第1号～第15号

滋賀県会

第1号 45p, 第2号 49p, 第3号 45p, 第4号 31p, 第5号 39p, 第6号 33p, 第7号 14p, 第8号 32p, 第9号 36p, 第10号 4p, 第11号 27p, 第12号 101p, 第13号 32p, 第14号 5p, 第15号 3p,
125×183mm

【会議日時、速記者】第一号 明治四十三年十一月十五日（書記 伊東定吉速記並校閲）、
午前十時四十分開議（書記 西澤里作速記 書記 布施孫助速記）、第二号 明治四十三年
十一月十九日（書記 伊東定吉速記並校閲）、第三号 明治四十三年十一月二十一日（書記
伊東定吉速記並校閲）、第四号 明治四十三年十一月二十二日（書記 伊東定吉校閲）、第五
号 明治四十三年十一月二十五日（書記 伊東定吉校閲）、第六号 明治四十三年十一月二
十八日（書記 伊東定吉校閲）、第七号 明治四十三年十一月二十九日（書記 伊東定吉校
閲）、第八号 明治四十三年十一月三十日（書記 伊東定吉校閲）、第九号 明治四十三年十
二月二日（書記 伊東定吉校閲）、第十号 明治四十三年十二月六日（書記 伊東定吉校閲）、
第十一号 明治四十三年十二月八日（書記 伊東定吉校閲）、第十二号 明治四十三年十二
月九日（書記 伊東定吉校閲）、第十三号 明治四十三年十二月十日（書記 伊東定吉校閲）、
第十四号 明治四十三年十二月十二日（書記 伊東定吉校閲）、第十五号 明治四十三年十
二月十四日（本会議録ハ速記ニアラス記臆セシコロヲ記録セシモノナリ）

【備考】タイトル、刊行年月日、発行所は内表紙による 仮綴じによる合綴本

4

その他

中央農地委員会総会議事速記録

111p, 150×210mm

【備考】奥付なし タイトルは表紙による 本文に「一、議案第四号、二、議案第八号（昭
和二十二年四月八、九日於千代田区丸ノ内燃料会館）」とある 速記者名なし

5

その他

第一期 貴族院傍聴筆記 全

1890年代

東北日報社

4, 12, 8, 154p, 175×235mm

【備考】タイトルは表紙による 目次なし 明治二十三年十二月四日～明治二十四年三月
七日貴族院の記事を収録 東北日報の付録を合冊したもの 速記者名なし

6

雑誌

山中竹次良編

第十六回宗会速記録（宗報号外）

1925年2月15日

滋賀県滋賀郡坂本村延暦寺内天台宗務庁

180p, B5判

【第十六回宗会速記録索引】◆開会及閉会、一 副議長ノ選挙、二 開会式諭示、三 答詞案起草ノ件、◆出席職員議員、一 議員氏名及議席番号、二 総務局員氏名、三 宗務庁委員氏名、◆議事日程、一 議事日程第一号、二 議事日程第二号、三 議事日程第三号、四 議事日程第四号、五 議事日程第五号、六 議事日程第六号、七 議事日程第七号、八 議事日程第八号、九 議事日程第九号

【備考】タイトル、発行年月日は表紙による 速記者名なし

7

その他

内田寛一

我観の時勢

1927年

10p, B5判

【備考】奥付なし タイトル、著者は表紙による 表紙に「呈山口俊策君」と書き込みあり 正誤表つき 正誤表に「文部省構内補習教育研究会発行月間雑誌「補習教育」大正十五年十月号（四十四号）～昭和二年四月号（五十号）までのうち正月号（四十七号）を除いて連載されたものを抜粋し、抜き刷りにしたもの」という記述がある p.1 冒頭に「この一篇は、横浜高等商業学校弁論部主催の公開講演会で試みました。話の速記に添削を加へたものがあります。」と作成事情が説明される 速記者不明

研究協力者（執筆）	専門	職業歴等
荒木章	文献調査、海外速記事情、機械入力	元地方公務員
アルベケル・アンド ラーシ	明治期の速記と日本語	近代日本語研究者
兼子次生	速記文化一般、速記史	元新聞記者、元日本速記協会 理事長
桑原みなみ	学生速記、高速度技能	関西学院大学卒業生、速記会 社勤務
小谷征勝	速記教育、文献収集	元地方公務員、速記創案者
菅原登	速記方式理論、WEB ライブラリ運営	元速記学校教員、中根式研究
下谷政弘	国語学から見た速記理論と実践	元大学教員
山崎恵喜	議事録作成理論と実践教育	元地方公務員

研究者

岡島昭浩	大阪大学文学研究科教授	研究代表者
河野光将	東京都立産業技術高等専門学校助教	3月まで大阪大学特任研究員
市地英	大阪大学文学研究科特任研究員	

速記科学研究会 研究協力者は、公益社団法人日本速記協会会員、速記科学研究会会員。主要メンバーの小原勉（元地方公務員、速記普及教育活動）、加古修一（速記事務所経営、速記方式理論研究）、金子秀重（会社員、速記実務、速記古文献収集）、鈴木努（元学校教員、機械入力研究）、中根康雄（速記学校経営）、中村佳史（元国会速記者）、平野明人（自営業、速記方式理論研究）、南治雄（テレビ字幕会社経営、速記者）、三牧勉（元地方公務員、速記文化研究）、薄葉威士（元国会速記者、速記全般）、遠藤基資（電子機械速記開発者）、宮島亮一（元厚生労働省職員）、久住和輝（元早稲田大学邦文速記研究会会員、速記競技会開催、速記学習ウェブサイト開発）、鷲尾亮（同、法曹界）らが速記を諸角度から研究している。

日本速記協会 site : <https://sokki.or.jp/>

速記道楽 : <http://sokkidouraku.com/>

速記春秋（緑匣庵） : <http://steno.web.fc2.com/>

琴葉姉妹の早稲田速記講座（ステ吉） :

<https://www.youtube.com/channel/UCuma-LoXfxCTFkdxF6cKaYg/featured>

速記学習者、このページに集まれ！ : <http://sokki.okoshi-yasu.net/index.html>

速記を始めてみませんか : <http://kyourennkai.web.fc2.com/>

兼子次生の部屋 : <http://caneco.my.coocan.jp/000/>

本科研の web ページ : <http://uwazura.perma.jp/sokki/>